

(様式1)

令和7年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標	(1) 自学自習 (2) 規律ある自由 (3) 体力の増進
(2) 現状と課題	「持って生まれたものを深くさぐって強く引き出す人」を目指す人間像とし、智・徳・体の調和がとれ、単なる知識修得ではなく、自ら考え自ら課題解決ができる、リーダーとして社会に貢献できる人材育成を目指している。徐々に受け身の生徒も増えつつあるため、主体的に学ぶ生徒を育てる体制を引き続き整えていくことが必要である。また、新学習指導要領や部活動改革、国際交流プログラムの開発、高等学校学校DX加速化推進事業など学校教育を取り巻く新しい動きに対応するため、校内の新たな体制作りを行うとともに研究に鋭意取り組んでいる。
(3) 重点目標	1 授業第一主義の徹底と自学自習の確立(学習指導) 2 豊かな人間性と社会性の育成(生徒指導) 3 当事者意識を土台としたキャリア教育の推進(進路指導) 4
(4) 結果の公表	本校ホームページのサイトに、保護者による「学校評価アンケート」、生徒による「授業評価アンケート」、学校評価のための教職員による「自己評価」の結果を掲載する。

学校整理番号	7
学校名	青森県立弘前高等学校
全日制の課程	
自己評価実施日	令和8年2月2日(月)
学校関係者評価実施日	令和8年2月13日(金)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
学校運営協議会 委員8名

自己評価				学校関係者評価		(10) 次年度への課題と改善策 (案)
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	授業第一主義の徹底と自学自習の確立(学習指導)	授業第一主義を徹底するとともに、学習習慣の確立を支援して自学自習を促すことにより、自己のメタ認知に基づきICTも活用した「個別最適な学び」を推進する。	①教科担任による指導の工夫と働きかけ、ホームルーム担任による個人面談を行い、生徒の自学の姿勢を育てることができた。 ②ICTの活用について、生成AIの教職員向けの研修を行い、授業改善に役立てることができた。 ③一人一台端末を活用した指導の研究と実践を重ね、生徒の「個別最適な学び」を推進した。 ④研究授業、互見授業、研修、重点校事業への参加を通して教員の授業力向上にも取り組み、生徒の論理的思考力・応用力の育成を図った。	A	①ICTや学校DX推進事業等の指導を進めていくのであれば、先生方の指導力向上のための研修なり、人材配置を進めていくべきである。 ②先生方がいろいろ一生懸命取り組んでいて、生徒を何とか活性化させてやろうという意図が見えるので、このまま進めていっていいと思います。 ③東青地区で1月の大雪で休校になった際に、オンライン授業を行った学校があったが、弘前高校でもそのような体制づくりは必要ではないか。	①授業へのICTの活用については一定の成果はあったが、教科の特性によっては、ICTの使用に限らず「個別最適な学び」を推進する方法を検討していく。 ②不登校生徒に対する遠隔授業や生徒に時間を返すための45分授業の導入等、検討していく事項は多い。 ③現在の本校の教育課程も来年度で3年目になるので、教育課程の見直しについても検討が必要である。 ④ICTの活用(タブレット端末の利用方法)についての研修とともに、「主体的・対話的で深い学び」を実現させるためのアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善に継続して取り組む。
2	豊かな人間性と社会性の育成(生徒指導)	自他の生命と人権を尊重する態度を育成するために、規律ある自由と体力の増進の実践を促し、探究活動、体験活動及び部活動等により多様な他者との「協働的な学び」を推進する。	①総合的な探究の時間、各教科の探究活動及び県重点事業「あおり創造学」プロジェクトの取組において、「問うことにより社会と関わる」態度が身に付き、地域課題に目を向け、その解決に向け、行政・大学・NPO法人とも連携するなど、校外へ飛び出し積極的に社会参画できる生徒が増えた。 ②弘高ねぶた制作と運行、弘高祭、修学旅行、部活動等により「協働的な学び」の機会を充実させることができた。特に高等学校DX加速化推進事業による「弘高ねぶた」の3Dデータ化とアーカイブ化は、弘高ねぶたの今後に新たな可能性をもたらすことになった。 ③部活動改革PTの答申を踏まえ、部活動の統廃合までには至らなかったが、教員の働き方改革の推進、「部活動事故防止チェックポイント」の改訂などの成果はあった。	A	①弘高のねぶた作り等が生徒の支えになって高校生活を過ごすことができていると思うので、豊かな人間性に近づいて成長していると思います。 ②地域に生徒が出ていくということはあまりなかったことなので、継続して行ってほしいと思います。 ③卒業までに何か一つ体験活動をやるというのを作ってはどうか。 ④地域を巻き込んで行う活動を進めてほしい直に生徒の声を伝えることも必要ではないか。	①弘高ねぶたの安全な運行等のために、保護者及び地域の方々の協力を得て、より良い活動を目指す。弘高ねぶたに係る経費については、学校DXの視点も入れて、制作費、日数などを見直ししていく。 ②部活動改革は、今後も国や県の動向を注視して、学校単独でできること、できないことを明確にして、生徒、保護者及び教職員の共通理解を図りながら継続して取り組む。
3	当事者意識を土台としたキャリア教育の推進(進路指導)	変化し続ける社会や世界にどのように参画していくかという当事者意識を土台とし、セルフ・リーダーシップを育成するキャリア教育を推進する。	①多様化する大学入試に対応するため、最新の入試情報の収集と還元に努め、生徒の進路志望・主体性を尊重した進路指導を行うことができた。 ②総合的な探究の時間における課題研究や職業人講話、出前講義等において、自己の適性と将来の進路について深く考える機会を設けることで、何事も当事者意識をもって、生徒は自ら設定した課題に主体的に取り組み、自らの進路を自身で決め、その実現に向かう能力を育んだ。 ③「Think globally. Act locally」とともに「Think locally, act globally」の視点から、国際交流プログラムを実施し、異なる文化や価値観を学ぶことができ、進路選択の拡大につなげた。	A	①国際交流プログラムが用意できて、一連の流れができていて素晴らしいと思いました。 ②出願状況について、いろいろな大学への出願が見られ、多様性が増えて良いことだと思います。 ③総探の活動で海外の事例もあると思うが、日本の事例も比べてみると何か理由が見えてくることもあると思うので、グローバルな視点で進めてほしいと思います。	①総合的な探究の時間のみならず各教科科目における探究活動の充実を図り、進路志望との関連性・継続性が図られるよう改善に取り組む。 ②国際交流プログラムの継続とさらなる発展を目指し、海外研修の在り方などをきめた内容の検討を進めていく。 ③海外の大学へ進学を希望する生徒に対応できるように、情報収集に努める。

(11) 総括	今年度の学校評価について、学校運営協議会に提出した際は1～3の3項目ともB(達成度60%以上)としていたが、学校運営協議会委員から、「A(達成度80%以上)を付けてなおかつ課題があってやっていく方がよい」という助言をいただき、目標の達成度を修正した。学校教育目標達成のための重点目標に沿った教育活動を計画的に実践し、本校が担う使命と役割を果たすことができています。今年度、国際交流プログラムの一連の流れが用意でき、その継続とさらなる発展については検討を進めていくことが必要である。次年度以降も「持って生まれたものを深くさぐって強く引き出す人」を育成するため、今年度の評価結果から見てきた課題と具体的な改善策に取り組み、生徒が当事者意識を持って「自ら問いを立てる」ことができるような体制を作り上げ、重点目標の達成を図りたい。
---------	---